

報道関係者各位
プレスリリース

株式会社スタイルポート

2024年1月29日

【2024年問題に揺れるゼネコンは「デジタルツイン」 をどう捉えている？】

「デジタルツイン」の認知度は約3割！

「デジタルツイン」の活用目的 Top3 は「工期短縮」「コミュニケーション効率化」「コスト削減」

～6割以上からデジタルツインが「2024年問題」の解決に有効との声！～

住宅の3Dコミュニケーションプラットフォーム『ROOV

(<https://styleport.co.jp/roov/>)』を開発・提供する株式会社スタイルポート(本社:東京都渋谷区、代表:間所 暁彦、以下スタイルポート)は、中堅～大手ゼネコン(売上1,000億円以上の総合建設企業)に勤める会社員108名を対象に、ゼネコンの「デジタルツイン」に関する意識調査を実施しましたので、お知らせいたします。

■調査サマリー

ゼネコンの 「デジタルツイン」に関する意識調査

TOPIC 01

「デジタルツイン」について、
「内容までよく理解している」ゼネコンは約3割

TOPIC 02

「デジタルツイン」の活用をしているゼネコンの活用目的、
第1位「工期短縮」(61.5%)
第2位「コミュニケーション効率化」「コスト削減」(57.7%)

TOPIC 03

60.2%が「デジタルツインは2024年問題解決のために有効」と回答

SUMMARY



■まとめ

今回は、中堅〜大手ゼネコン（売上 1,000 億円以上）に勤める会社員 108 名を対象に、ゼネコンの「デジタルツイン」に関する意識調査を実施しました。

まず、「デジタルツイン」について、「内容までよく理解している」ゼネコン従事者は約 3 割であることが分かりました。また、デジタルツインの活用が進んでいるという回答は 24.1%で、活用の目的としては、「工期短縮」が 61.5%で最多、次いで「コミュニケーション効率化」「コスト削減」が 57.7%となっています。さらに、デジタルツインが「2024 年問題」解決のために有効だと考えている人は 60.2%にのぼり、活用によるメリットとして、「品質向上」（42.6%）、「コミュニケーション効率化」（33.3%）、「工期短縮」（32.4%）に期待を寄せていると回答しました。

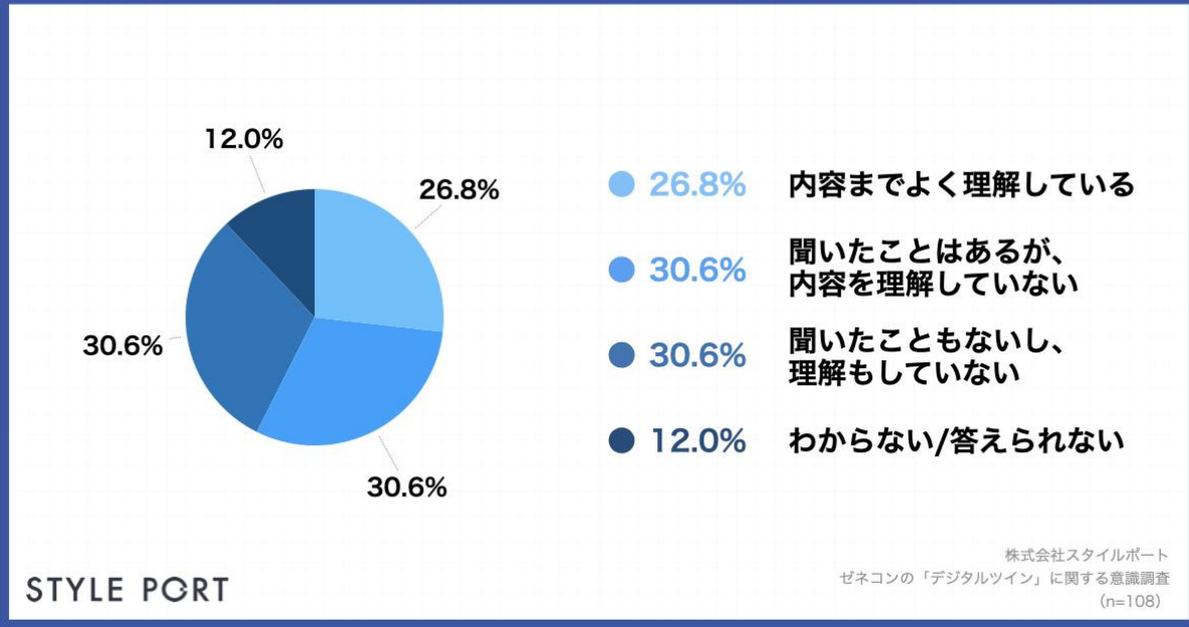
今回の調査では、ゼネコンにおける「デジタルツイン」活用の実態が明らかになりました。建設業界では、「2024 年問題」による人材不足の波が押し寄せており、DX による生産性の向上と人員の最適化の必要性が高まっています。デジタル技術の一つとして近年注目されている「デジタルツイン」が、これらの課題の解決に繋がるのではないのでしょうか。

▼本調査のレポートダウンロードはこちら
<https://roovspace.wixsite.com/download>

■過半数が「デジタルツイン」を知っている一方、内容まで理解しているのは約 3 割

「Q1.あなたは、「デジタルツイン」をご存じですか。（「デジタルツイン（DigitalTwin）」とは、現実空間の情報を、サイバー空間内に再現する技術のことです。）」（n=108）と質問したところ、「内容までよく理解している」が 26.8%、「聞いたことはあるが、内容を理解していない」が 30.6%、「聞いたこともないし、理解もしていない」が 30.6%という回答となりました。

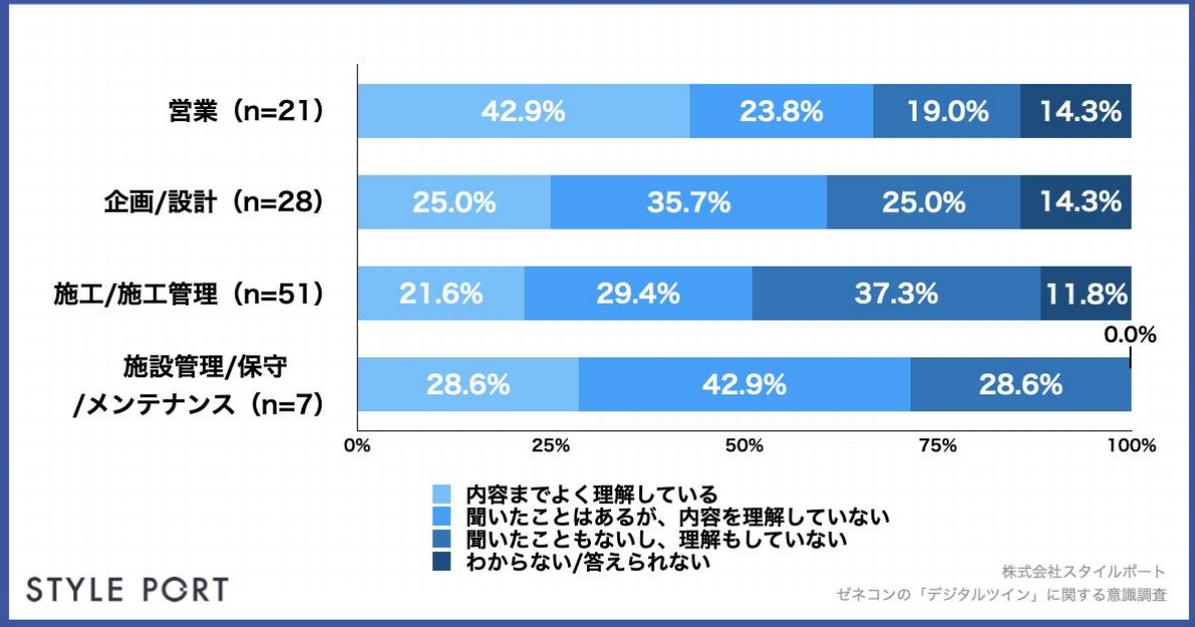
Q1 あなたは、「デジタルツイン」をご存じですか。



- ・ 内容までよく理解している : 26.8%
- ・ 聞いたことはあるが、内容を理解していない : 30.6%
- ・ 聞いたこともないし、理解もしていない : 30.6%
- ・ わからない/答えられない : 12.0%

■職種別 : 「営業職」において特にデジタルツインの理解度が高いという結果に

Q1 あなたは、「デジタルツイン」をご存じですか。（職種別）

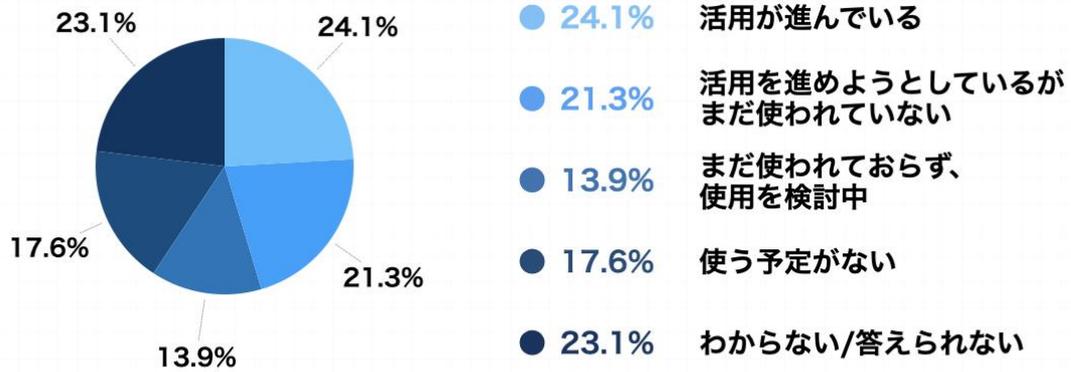


■ゼネコンにおけるデジタルツインの活用状況、24.1%が「活用が進んでいる」と回答

「Q2.あなたのお勤め先における、「デジタルツイン」の活用状況を教えてください。」(n=108)と質問したところ、「活用が進んでいる」が24.1%、「活用を進めようとしているがまだ使われていない」が21.3%という回答となりました。

Q2

あなたのお勤め先における、
「デジタルツイン」の活用状況を教えてください。



STYLE PORT

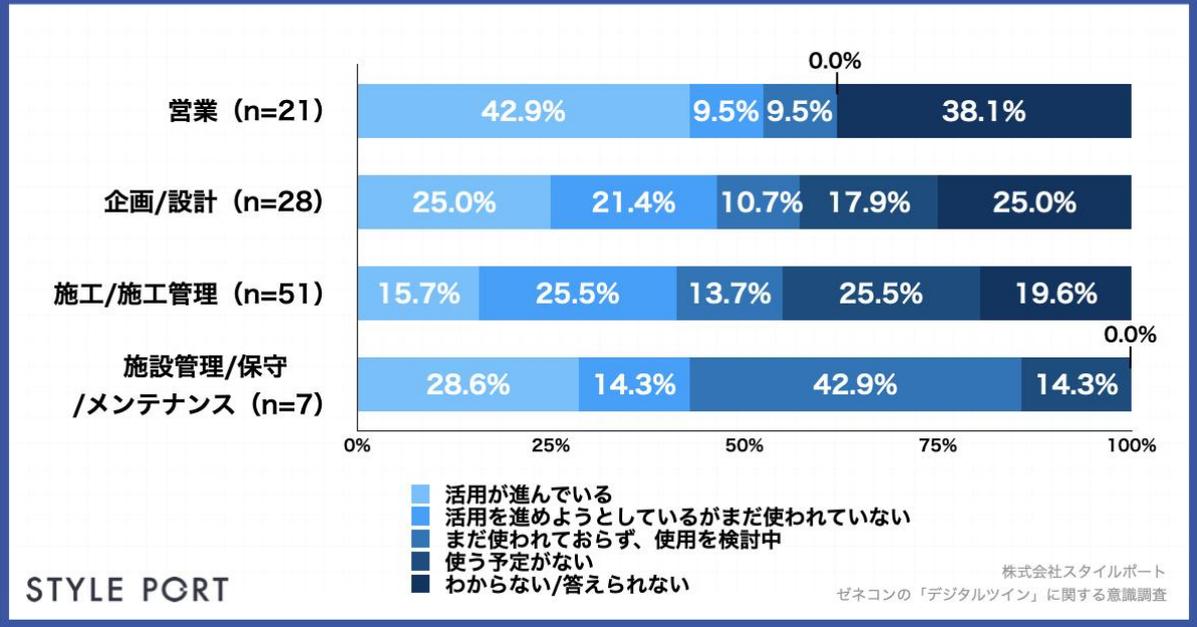
株式会社スタイルポート
ゼネコンの「デジタルツイン」に関する意識調査
(n=108)

- ・ 活用が進んでいる : 24.1%
- ・ 活用を進めようとしているがまだ使われていない : 21.3%
- ・ まだ使われておらず、使用を検討中 : 13.9%
- ・ 使う予定がない : 17.6%
- ・ わからない/答えられない : 23.1%

■職種別 : 「営業職」において、特にデジタルツインの活用が進んでいる実態

Q2

あなたのお勤め先における、「デジタルツイン」の活用状況を教えてください。（職種別）

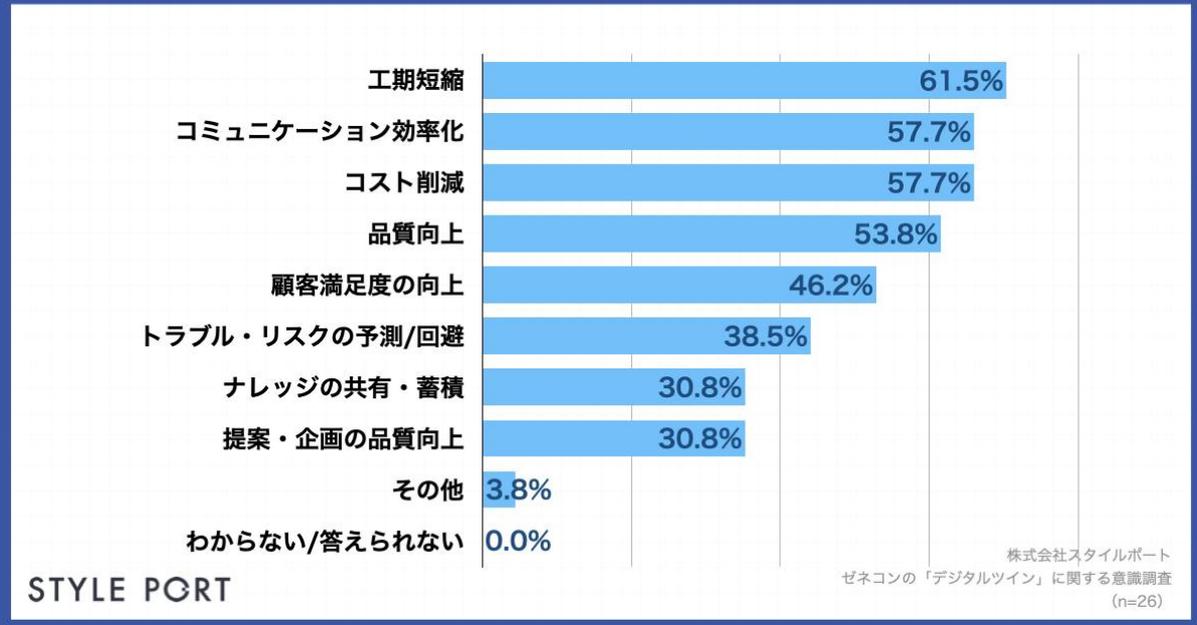


■デジタルツイン活用の目的、「工期短縮」「コミュニケーション効率化」「コスト削減」が Top3

Q2で「活用が進んでいる」と回答した方に、「Q3.「デジタルツイン」を活用している目的を教えてください。（複数回答）」（n=26）と質問したところ、「工期短縮」が61.5%、「コミュニケーション効率化」が57.7%、「コスト削減」が57.7%という回答となりました。

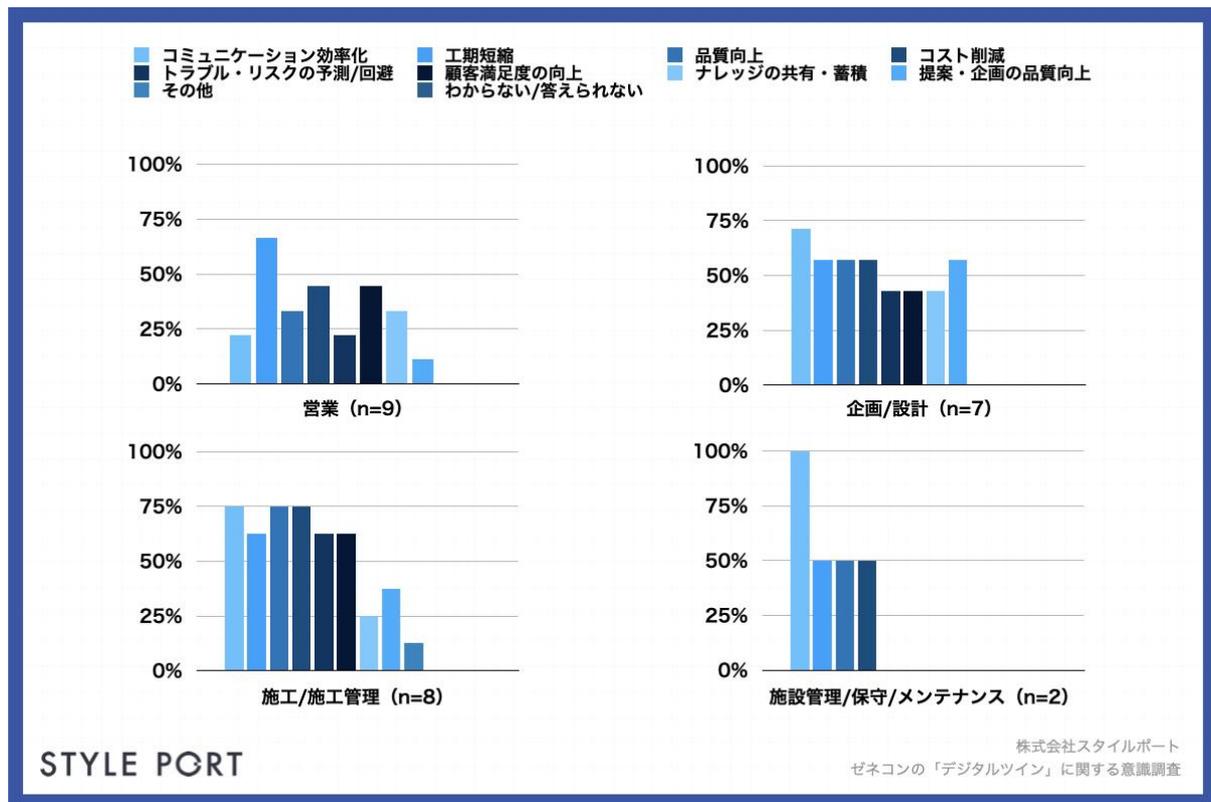
Q3

「デジタルツイン」を活用している目的を教えてください。
(複数回答)



- ・ 工期短縮 : 61.5%
- ・ コミュニケーション効率化 : 57.7%
- ・ コスト削減 : 57.7%
- ・ 品質向上 : 53.8%
- ・ 顧客満足度の向上 : 46.2%
- ・ トラブル・リスクの予測/回避 : 38.5%
- ・ ナレッジの共有・蓄積 : 30.8%
- ・ 提案・企画の品質向上 : 30.8%
- ・ その他 : 3.8%
- ・ わからない/答えられない : 0.0%

■職種別：「コミュニケーションの効率化」が主な目的の他職種と比較して、営業職は「工期短縮」の目的が強い



■具体的なデジタルツインの活用場面、「シミュレーション」や「リモート検査」など

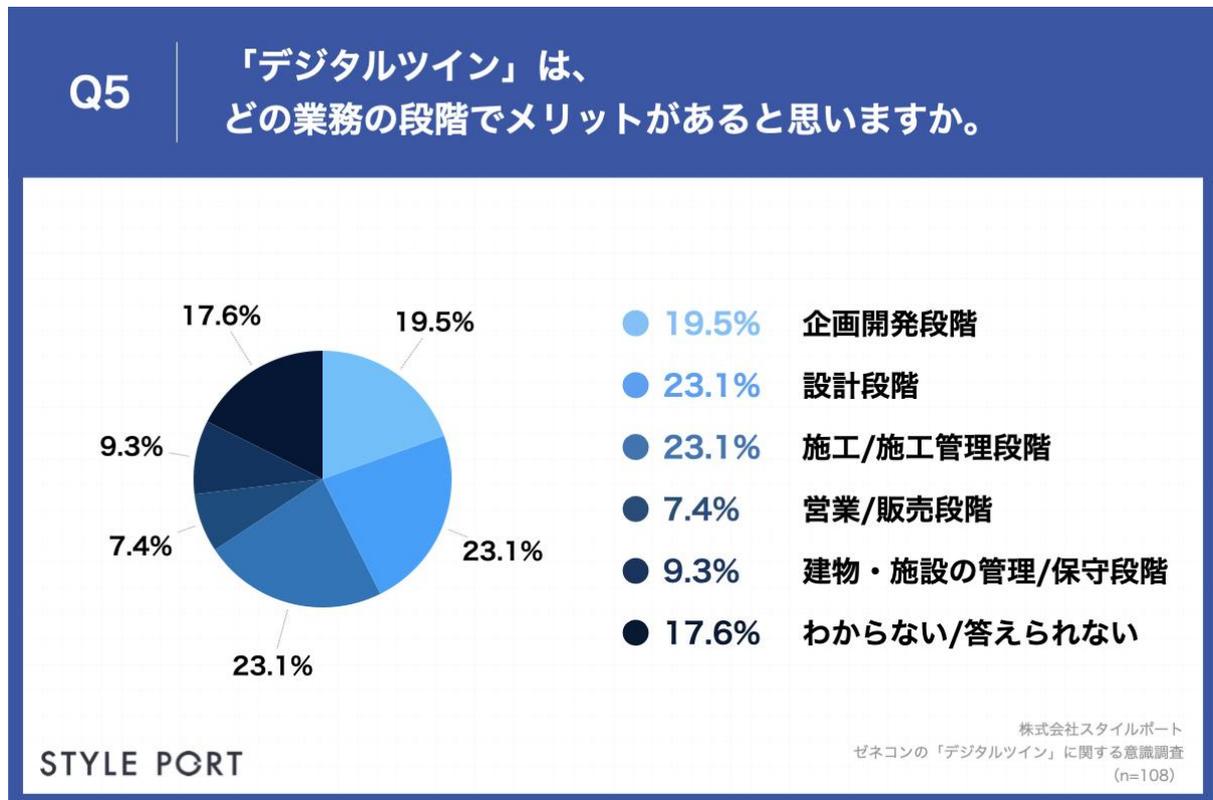
Q3で「わからない/答えられない」以外を回答した方に、「Q4.Q3で回答した目的について、具体的にどのように、「デジタルツイン」を活用しているか教えてください。（自由回答）」（n=26）と質問したところ、「シミュレーション」や「リモート検査」など17の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・ 44歳：シミュレーション。
- ・ 59歳：リモート検査。
- ・ 59歳：施行事例の共有。
- ・ 58歳：人流の把握、エネルギーロスの推進。
- ・ 46歳：図面ではわかりにくいものを3次元で表現する。
- ・ 31歳：コミュニティの構築。

■デジタルツインは「設計段階」「施工/施工管理段階」でメリットあり

「Q5.「デジタルツイン」は、どの業務の段階でメリットがあると思いますか。」
(n=108)と質問したところ、「設計段階」が23.1%、「施工/施工管理段階」が23.1%という回答となりました。



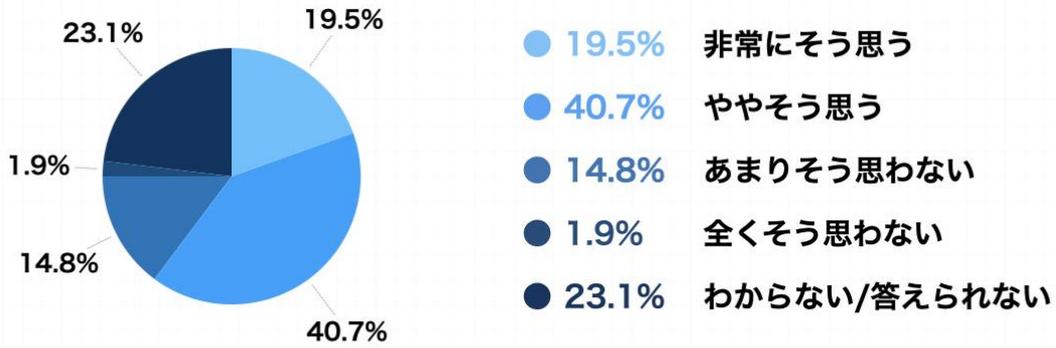
- ・ 企画開発段階：19.5%
- ・ 設計段階：23.1%
- ・ 施工/施工管理段階：23.1%
- ・ 営業/販売段階：7.4%
- ・ 建物・施設の管理/保守段階：9.3%
- ・ わからない/答えられない：17.6%

■6割以上から、「デジタルツインは2024年問題解決に有効」との声

「Q6.「デジタルツイン」は2024年問題の解決のために有効だと思いますか。」
(n=108)と質問したところ、「非常にそう思う」が19.5%、「ややそう思う」が40.7%という回答となりました。

Q6

「デジタルツイン」は2024年問題の解決のために有効だと思いますか。



STYLE PORT

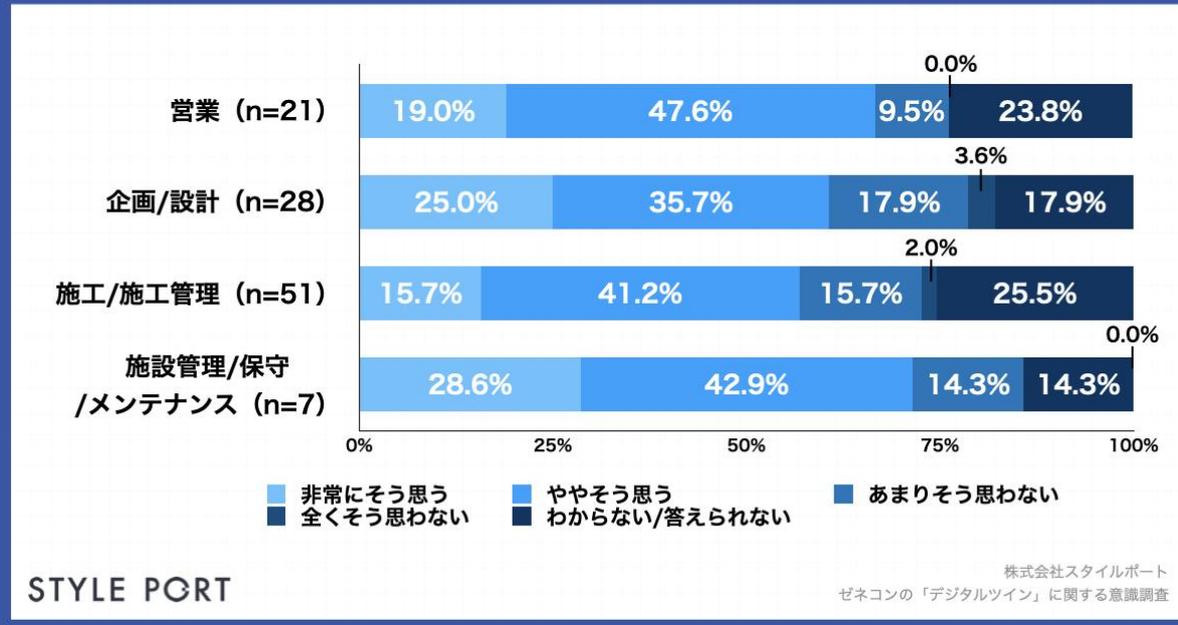
株式会社スタイルポート
ゼネコンの「デジタルツイン」に関する意識調査
(n=108)

- ・ 非常にそう思う : 19.5%
- ・ ややそう思う : 40.7%
- ・ あまりそう思わない : 14.8%
- ・ 全くそう思わない : 1.9%
- ・ わからない/答えられない : 23.1%

■全職種が「デジタルツインは2024年問題解決に有効」と期待

Q6

「デジタルツイン」は2024年問題の
解決のために有効だと思いますか。(職種別)

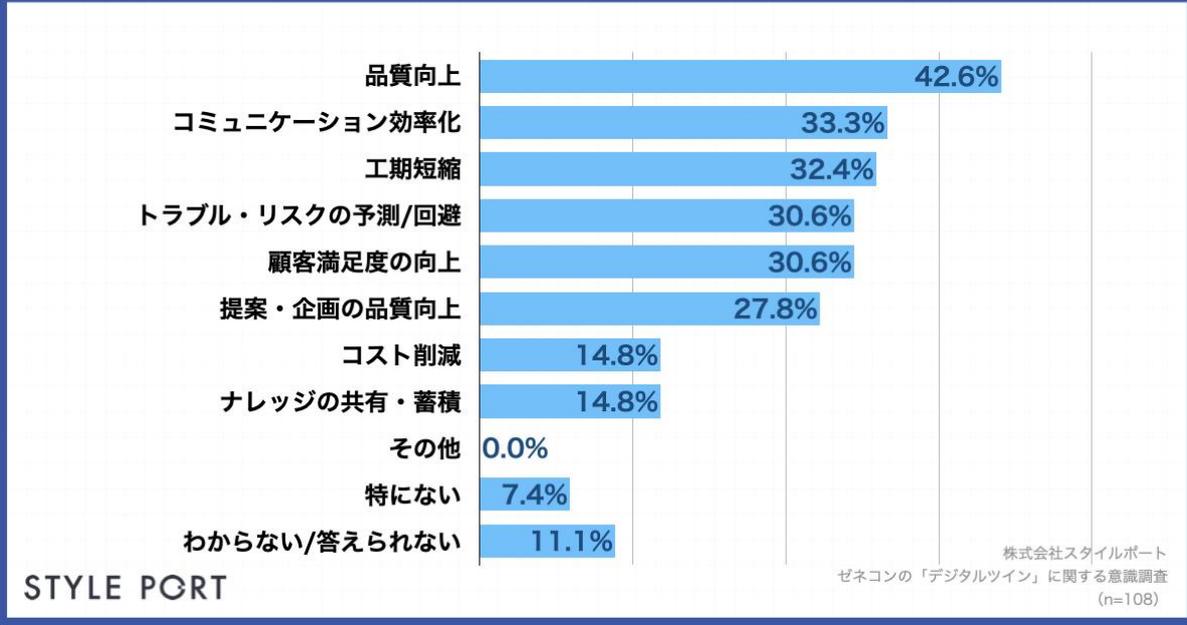


■デジタルツイン活用によるメリット、42.6%が「品質向上」に期待

「Q7.今後、「デジタルツイン」を活用することで期待するメリットを教えてください。(複数回答)」(n=108)と質問したところ、「品質向上」が42.6%、「コミュニケーション効率化」が33.3%、「工期短縮」が32.4%という回答となりました。

Q7

今後、「デジタルツイン」を活用することで期待するメリットを教えてください。（複数回答）



- ・ 品質向上 : 42.6%
- ・ コミュニケーション効率化 : 33.3%
- ・ 工期短縮 : 32.4%
- ・ トラブル・リスクの予測/回避 : 30.6%
- ・ 顧客満足度の向上 : 30.6%
- ・ 提案・企画の品質向上 : 27.8%
- ・ コスト削減 : 14.8%
- ・ ナレッジの共有・蓄積 : 14.8%
- ・ その他 : 0.0%
- ・ 特にない : 7.4%
- ・ わからない/答えられない : 11.1%

■調査概要

調査概要：ゼネコンの「デジタルツイン」に関する意識調査

調査方法：IDEATECH が提供するリサーチ PR「リサピー®」の企画によるインターネット調査

調査期間：2024年1月9日～同年1月10日

有効回答：中堅～大手ゼネコン（売上1,000億円以上の総合建設企業）に勤める会社員（営業担当者21名、企画/設計担当者28名、施工/施工管担当者51名、施設管理/保守/メンテナンス担当者7名、未回答者1名）108名

回答者の対象事業（回答者数）：マンションデベロッパー（46名）、ハウスメーカー、戸建て事業者（29名）、都市開発事業者（61名）、商業施設開発事業者（58名）、公共インフラ受託事業者（49名）、リゾート開発事業者（40名）、物流倉庫（51名）、ホテル、レジャー施設開発事業者（47名）、その他（6名）、未回答（6名）

※回答者の対象事業における回答者数については、当てはまるもの全てをご回答いただいているため、合計しても必ずしも108名とはなりません。

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

<<利用条件>>

- 1 情報の出典元として「株式会社スタイルポート」の名前を明記してください。
- 2 ウェブサイトで使用する場合は、出典元として、下記リンクを設置してください。

URL：<https://styleport.co.jp/roov/>

■デジタルツインで建設・不動産業界のDXを牽引する。「株式会社スタイルポート」について



建物が完成するまで、従来は図面を見ながら合意形成をしていましたが、図面だけではイメージがしにくく、特に規模の大きな建物においては、利害関係者も多く、合意形成まで時間や

コストがかかります。昨今は、BIM の活用により、完成形をイメージしやすい 3D 画像によって合意形成を行うケースが増えていますが、BIM はデータ量が重く、WEB ブラウザ上でのやりとりは困難です。3D コミュニケーション・プラットフォーム『ROOV』であれば、WEB ブラウザ上で、誰もが、いつでも、どこでも、簡単に 3D 画像による確認ができ、合意形成をサポートします。

《スタイルポートの「デジタルツイン」とは》

仮想空間上に再現したデジタルツインによって、いつでも・どこにいても・誰とでも簡単に空間イメージを共有し、コミュニケーションを拡張。これによって、空間理解の障壁であった、時間・場所・経験による制約からユーザーを解放します。

同時にコミュニケーションを可視化し、デジタルツイン上に関連づけて整理記録された情報プラットフォームを構築します。

詳しくはこちら：<https://styleport.co.jp/>

■会社概要

会社名 : 株式会社スタイルポート

設立 : 2017 年 10 月 11 日

代表者 : 代表取締役 間所 暁彦

所在地 : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-3-15 東京セントラル表参道 322 号室

事業内容 : 建築・不動産マーケットにおける IT ソリューションの開発および提供

URL : <https://styleport.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社スタイルポート 遠藤

TEL : 03-6812-9555 E-mail : info-contact@styleport.co.jp